

とほろろ



△電線の地中化も検討されている吉原本町商店街



吉原

だれもが安らぎに満ちた
暮らしが営めるまち

このコーナーでは、公民館単位に各地区の話題や人物を紹介します。あなたの地区でのちょっとしたこぼれ話、出来事、ご意見などありましたらご連絡ください。6月は今泉、7月は伝法地区です。連絡先…市内永田町1-100 市広報広聴課 ☎51-0123 内線2822、締め切りは毎月15日です。

吉原は東海道五十三次の宿場町として栄えてきました。延宝八年(一六六〇)、大津波により依田橋西方にあった中吉原宿が全滅しました。今の吉原本町通りに吉原宿ができたのは、翌天和元年の暮れから二カ年をかけて、所替えたためです。当時の戸数は二百九十七軒でした。

吉原地区は昭和三十五年の吉原本町商店街の防災街区造成事業を初め、津田・青島・永田地区の区画整理事業により町並みが連なりました。官公庁、金融機関、事業所など都市中枢機能の集積が進み、活発な商業活動は地区発展の原動力となっています。

地区南部は工業地域で、田子の浦港開港以来、藤沢薬品、日本食品化工などが進出し、和田川西岸には日産自動車もあります。

近年は地価が上昇し、人口の他地区への流出が見られています。また、中心地としての交通問題、和田川の溢水による浸水被害の防止対策、商店街の再開発などが求められる地区でもあります。



△代表の齊藤さん(写真前列右から4番目)と吉原祭りの会の皆さん

現在月一回の会合をもち、魅力ある祭りについて話し合っています。ことしの祇園祭りは六月十三・十四日に行われますが、十三日の夜には、時間を決めて山車のせり合いを計画しています。

代表者となった齊藤さんは「私は祭りを通じて社会性を身に付け、吉原らしさを肌で感じ取ってきました。地元にはない大学生が、友達を連れて帰って来たくならないように祭りにできれば、吉原の活性化にもつながるはずですよ。」と語ってくれました。

昔の祭りは青年が主導権を握っていました。祭りの一カ月前には太鼓の練習や仕度を始め、当日は完全燃焼。終わった数日はボーとません。

「若者が少なくなった祇園祭り、このままでいいのか」と考えていた齊藤文公さん(昭和通り)が、「吉原祭りの会」を提唱したところ、あっという間に五十人が集まりました。

「若者が少なくなった祇園祭り、このままでいいのか」と考えていた齊藤文公さん(昭和通り)が、「吉原祭りの会」を提唱したところ、あっという間に五十人が集まりました。

年々盛大になる祇園祭り。でも昔を知るきつすいの吉原っ子にとって、今の祭りはもう一つ物足りません。

「若者が少なくなった祇園祭り、このままでいいのか」と考えていた齊藤文公さん(昭和通り)が、「吉原祭りの会」を提唱したところ、あっという間に五十人が集まりました。



祇園祭りをもつと魅力的に





小学生のそろばんで2年連続
市内一

渡辺由美子さん

伝法2 伝法小学校6年生



四月に行われた「第六回富士市小学生珠算競技大会」で、二年連続市内一に輝いた渡辺由美子さん。由美子さんというより由美子ちゃんと呼んだ方がピッタリ。笑顔のかわいい女の子です。

小学校一年生のとき友達に誘われてそろばんを始め、昨年の秋、小学生にはまれな二段を取得。学校では前から「番目」という小さい体ながら、問題を前にするとすごい集中力を発揮して、あつという間に答えをはしき出します。乗除の暗算は親指と人さし指をピクツと動かすだけで御名算。学校の先生もあてにするという正確さです。今回の大会では七百五十点中六百九十五点を取りました。そろばんの深沢末雄先生は「体は三二でもスケールの大きい子」とその素質を認めます。今回の受賞を一番喜んでくれたのは、おばあさんのこうさん。三人姉妹の末っ子で大のおばあちゃん子とか。

まちか

我がまちを語る



鈴木邦衛さん

吉原本町2 (70歳)

祭りが生む吉原の力

東海道の宿場として発達してきた吉原は、昔から比較的豊かなまちでした。豊かであったことが、変化を好まない風土を築き、鉄道の駅設置などではマイナスの作用を

したとも考えられますが、総体としては順調に発展をしてきました。この発展のエネルギーは、いろいろあげられます。私なりに一番の力と思うのは祇園祭りです。町をにぎわすのは、いつの時代も人の集まりで、祭りはコミュニケーションの核です。祇園祭りのもたらす共同意識は、吉原への愛着となり、他地区には見られない住民の力を生み出しています。吉原は最近ちょっと元気がないと言われます。しかし、長期的視野で新幹線新駅との交通体系を整え、本町通りと昭和通りの間の再開発を考えれば、明るい展望が開けるのではと考えています。

あの人の人こんなこと



みんなが交通安全

鈴木亜希子さん(錦町二)



「雨降りは注意二倍の登下校」これは昭和六十二年度の交通安全スローガンとして募集された二百九十四万七千六百六十四点の中で、総務庁長官表彰を受けた作品です。作者は吉原第一中学一年生の鈴木亜希子さん。雨降りに子供が傘を前にして歩くのをヒントにしました。雨の日は鈴木さんの標語を思い出して、みんなが交通安全。

市内一の鉄人

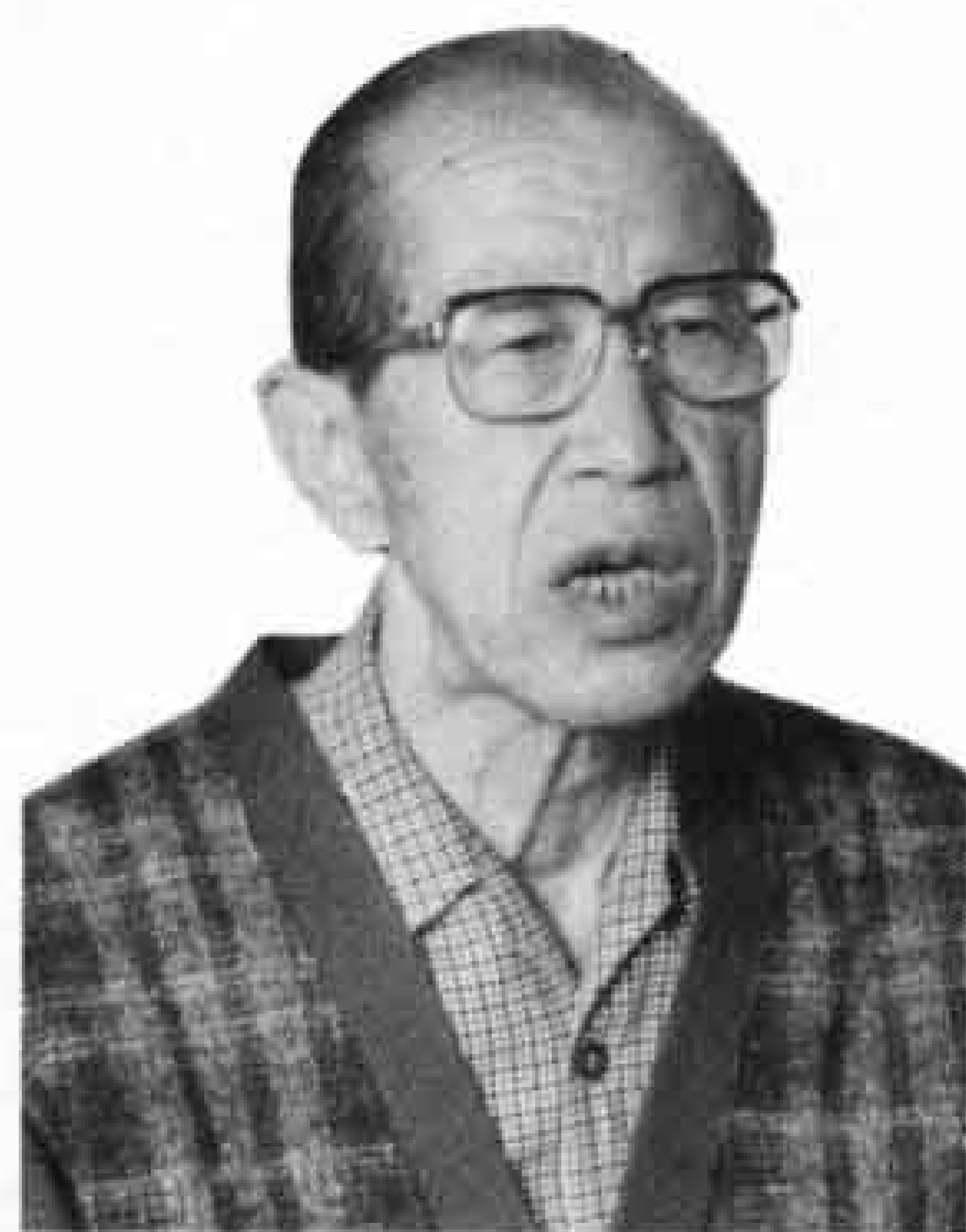
久保田保雄さん(東本通二)



水泳三・九歳、サイクリング百八十歳、マラソン四十二・一九五歳のタイムを競うトライアスロン。久保田さんは「厄年を積極的に乗り切ろう」とトライアスロンに挑戦。昨年はハワイで行われた世界大会に出場し、見事完走しました。練習は毎朝五時半から二、三時間。疲れを知らない市内一の鉄人です。

静かな人気「寿コーラス」

和田義盛さん(錦町二)



吉原地区のお年寄りの間で、静かな人気を呼んでいるのが「寿コーラス」。昭和五十八年に十人ぐらいで始めたものが、現在会員百十人。月二回、吉原公民館を会場に、民謡から最新ヒット曲まで幅広く歌っています。主宰者の和田義盛さんは、つやのある声で「歌の上手下手より、歌を通じて人間関係を深めています。」と元気いっぱい。